

「謙遜の三段階」

164 注意第三

選定に入る前に、我が主キリストの真の教えに熱心となるため、次の「謙遜の三段階」を考察し、熟慮するのは、極めて益となる。一日中時間をおいてはそれについて考え、又後に(168)述べるように同じ三つの対話をする。

〔 謙遜の三段階 〕

165 謙遜の第一段階

永遠の救いのために必要な謙遜の段階である。すなわち、全てにおいて主なる神の掟に従えるよう、できる限り身を低くして、自分を卑しくする事である。従って、例えこの世の造られた全てのものの主とされようとも、又自分の命のためであっても、神の掟にせよ、人間の掟にせよ、背けば大罪になる掟を破ろう等とは考えもしない。

166 謙遜の第二段階

第一の段階よりも一層完全な謙遜である。すなわち、もし主なる神への奉仕、及び自分の靈魂の助かりのためにどちらも同じく役立つなら、貧しさよりも富を、不名誉よりも名誉を、短命よりも長寿を望む事なく、いずれにも傾かない態度をもつと言う事である。その上、例え全世界を手に入れるためでも、あるいは、命を失う事になろうとも、小罪を犯そう等とは考えもしない。

167 謙遜の第三段階

最も完璧な謙遜である。すなわち、第一と第二の段階を含め、もし主なる神の栄光と賛美が同じであるならば、我が主キリストに一層誠実に倣い、似た者になるため、貧しいキリストと共に富よりも貧しさを、侮辱に飽かされたキリストと共に名誉よりも侮辱を望み、この世の学者、賢者とみなされたい望みよりも、かつて愚者、狂人とみなされたキリストのために、愚者、狂人とみなされる事を望み、選ぶのである。

168 注意

このようにして謙遜の第三段階に到達したい人には、前記の「三組の人」の三つの対話を行うのが極めて益となる。主なる神への等しく、又はより大いなる奉仕と賛美になるならば、主により良く倣い仕えるために、我が主がこうした第三のより深く、より良い謙遜の段階に自分を選んで下さるように願うべきである。

「謙遜の三段階」

147 対話一（三つの対話）

聖母と対話して、聖母の御子であり主であるキリストに次の恵をとりなして下さるようお願い。キリストの旗のもとに私が受け入れられ、まず第一に、心の完全な貧しさに受け入れられるように。又、み旨に叶い、主なる神が私を選び受け入れる事を望まれるならば、実際の貧しさにも受け入れられるように。第二に辱めと蔑みにおいて、一層主に倣うために、それを体験させて下さるようお願いするのである。但し、それを体験するにあたって、それが誰の罪にもならず、主なる神が嫌われる何事もない事を前提とする。ついで天使祝詞一回。（アベ・マリア）

対話二

御父に同じ恵をとりなして下さるように御子に願う。ついで、「アニマ・クリスティ」を唱える。

対話三

同じ恵を御父に願う。主祷文を唱える。（主の祈り）

[189] この目的に到達するため、前述のごとく、選定のための霊操とその方法を通じて、召使や雇人を何人にするか、家をどのように世話し治めるか、又、どのように言葉と模範によって家族を指導するか等について良く検討し熟考してみなければならない。又、財産から家族と家のためにどれだけを取り、貧しい人々と他の慈善事業のためにはどれだけを取るべきかを考えなければならない。彼が望み求めるべき事は、全てにおいて、又全てを通して主なる神へのより大いなる賛美と栄光だけである。というのは、人は誰しも自愛心、我意、利己心から離れれば離れるほど、あらゆる霊的な事柄において進歩すると考えるべきであるからである。

「謙遜の三段階」

弟子の覚悟

⁵⁷ 一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。⁵⁸ イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」⁵⁹ そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。⁶⁰ イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」⁶¹ また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」⁶² イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。(ルカ 9,57-62)

金持ちの男

¹⁷ イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいのでしょうか。」¹⁸ イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。¹⁹ 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」²⁰ すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。²¹ イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」²² その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。²³ イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」²⁴ 弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。²⁵ 金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁶ 弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。²⁷ イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」(マルコ 10,17-27)

「謙遜の三段階」

四人の漁師を弟子にする

¹⁸ イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。¹⁹ イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。²⁰ 二人はすぐに網を捨てて従った。²¹ そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。²² この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。
(マタイ 4,18-22)